

交通安全・医理工連携の今

「世界一」への挑戦

☆58



NPO法人 救急ヘリ病院ネット
理事一般社団法人 ドライブロード
イブローダー協議会 会長

HEM-Netは、交通事故負傷者の救命と後遺症軽減を目的に、事故時に「救急自動通報システム」(D-Car Net)が自動で起動し、本部にてデータ回線やFAXで情報を提供するシステムを全国に構築すべく取り組んでいます。

宮寄 拓郎

Eメールで配信されている。AACNが新車から搭載されるのに対し、使用過程車にも後付で搭載できることで、既に数万台に搭載されている。HEM-Netは、後付AACNを利用して

傷害の重症度を予測して病院と消防機関に通報することが可能である。事故時に車両から自動発信される衝突データから乗員の活動度を早期に起動させることが可能である。

D-Car Netは、自動車の衝突度などを記録したイベントデータレコーダー(EDR)データを自動通報する「先進事故自動通報装置」(AACN)を利用したシステムである。2018年

度から本格運用が始まり、乗員の死亡率・重症率・衝突時の速度変化、シートベルト着用有無などの情報が全国の消防

機関に

送信される。

HEM-Net

第2種救急自動通報システム



図2 ドングル型後付ACNの例



図2 ドングル型後付ACNの例



図3 後付救急自動通報システムの通報画面の例

ドライブレコーダー型後付ACN」(図1)やシガーソケットに装着して衝撃を検知する「ドクターへリの自動通報システム」(D-Car Net)が自動で起動し、本部にてデータ回線やFAXで情報を提供されるようになった。その情報は全国のドクターへり基地病院(62病院、53機)の種D-Car Netの目乗員の閉じ込め、乗員の車外



「ドライブレコーダー」を特定できれば、「コールセンター」はドクターへリの出動要請を直接して配信できる。それらの見合いで安全直ちに配信できることで、交通事故社会づくりを支援することをねらい半世紀以上、活動を展開している。

特に歩行者・自転車等との事故はAACNでは感知しにくいが、ドライブレコーダー型後付ACNであれば、その映像から通報することができる。また、車内の映像も記録する2カメラ式では、後席乗員の事故状況についても通報の電話やクラウドサーバーに記録された事故映像をもとに消防機関に対して救助要請を行うことができる。事故映像からの「キーワード」の特定について

大変形などである。通報内容について検討している。が「キーワード」に該当する場合には一般的に傷害度が大きくなり、ドクターへリを要請した出動を要請する際の判断には、ドクターへリを要請した方が良いと判断でき、救命救急活動を早期に起動できる。「キーワード」の例は、既存のドライブレコーダーが事故映像から該当する「キーワード」が使われている。【調査研究を開始し、第2回の例は、既存のドライブレコーダー型後付ACNの場合には、コールセンターへり出動要請の「キーワード」を特定できれば、「コールセンター」はドクターへリの出動要請を直接して配信できる。それらの見合いで安全直ちに配信できることで、交通事故社会づくりを支援することをねらい半世紀以上、活動を展開している。

日本交通科学学会 医療、工学、自動車メーカー、行政、なら幅広い分野からトップレベルの専門家・識者が参加。そこで期待することができる。新たなD-Car Netの開発によって自動化することができると考えられるので、よう(図3)。